

地域連携 渉外担当の役割 ～みなとまち横浜 薬局薬剤師との連携について～

済生会神奈川県病院 医療連携室¹⁾、済生会神奈川県病院 患者サポートセンター²⁾、済生会東神奈川リハビリテーション病院 医事課³⁾、済生会東神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーション科⁴⁾、済生会東神奈川リハビリテーション病院 看護部⁵⁾

○今川 康正¹⁾、佐々木 貴子²⁾、潮 仮名前¹⁾、
寺元 仮¹⁾、北村ルミ子²⁾、濱崎 啓師³⁾、
鈴木 俊幸⁴⁾、寺見 雅子⁵⁾、江成千賀子⁵⁾

【背景】横浜市神奈川区、鶴見区には、済生会神奈川県病院の他2つの済生会病院が立地し医療連携のそれぞれの役割を担っている。【目的】地域連携の渉外業務に注力する医療機関（含、薬局）が増えてきている。その活動は、ファクトベースでの情報共有が大切になる。済生会病院で、専従の渉外担当者として6年間の行動実績で、薬局訪問を積極的に開始した2023年度実績を解析した。そして、アフターコロナでの地域連携の担い手としての薬局の役割を考察した。【方法】毎日院内報告している行動日報で、調査期間は2023年度の渉外活動の行動日報で面談内容を分析、検証した。【結果】上記期間で、すべての医療機関にはの〇件であった。そのなか、薬局訪問は〇回であった。薬局訪問の目的は健診センターのポスター掲示依頼活動が中心であった。積極的な協力を頂ける薬局もあり、地域住民への啓蒙に有効である経験をした。一方、地域の多職種連携の会に積極的に参加される薬剤師の存在も知ることができた。その中で、摂食嚥下活動の多職種連携の会※に訪問薬剤師が参加頂き、会議に厚みが増した。※横浜市、疾患別医療介護連携事業 【考察】コロナ後、渉外担当者が、医療機関に直接訪問、面談する事で、タイムリーな情報提供・収集はスピード感をもって実施出来る。接触嚥下、糖尿病、心不全、緩和のそれぞれのテーマに薬局、薬剤師の役割は必須である。その中、薬剤師による服薬指導の重要性を薬剤師以外の職種に浸透するように勤める事も大切である。渉外活動を拡大し、薬局、介護施設、病院への訪問にも注力している。当区にも多数の薬局が散在し、どの薬局と取り組みれば良いか模索しながら、進化させていきたい。